

# プレアクト情報

## ■アクトトレーラー

この仕事は、簡単だ。

探偵の仕事と言えば、浮気調査や猫探し。  
荒くれ者の初仕事と言えば、ゴブリン退治。  
誰もが最初に通る道だ。

ただし、気をつけろ。  
猫は魔術が生み出した使い魔かもしれないし、  
ゴブリンはサイバーウェアでチューン済み。

ここは<sup>ニューロエイジ</sup> <sup>アウトターエッジ</sup> 電脳世紀の最先端。  
電脳と魔術が交差する街。

トーキョーN◎VA The Detonation  
『ラン・キャット・ラン』

かくして、運命の扉は開かれた。

## ■シナリオ情報

### ▼推奨プレイ環境

テキスト、Skype、オフのいずれにも対応。

### ▼プレイ時間

3～4時間（テキストの場合、8～12時間）

### ▼プレイヤー人数

2～4人

### ▼シナリオ傾向

アストラル、初心者向け、コミカル

## ●レギュレーション

本誌に収録されているデータでの想定レギュレーションを以下に記載する。ただし、使用するデータの変更やRLが調整を行った場合、改めてレギュレーションを提示すること。

使用経験点：20～100点程度を想定

最大達成値：20台後半

## ■キャスト作成

プレアクトシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

## ●推奨スタイル

- ①『フェイト』：フリーランスの探偵
- ②『バサラ』：聖母殿退魔局の退魔師
- ③『アヤカシ』：サロン・ドルファンの執行人

## 推奨スタイル：フェイト

SCENARIO HANDOUT

### コネ：ローラ

推奨スート：感情

君の仕事は、何かを探すことだ。  
探偵業を営む君に持ち込まれた今回の仕事は猫探し。依頼人は君に憧れて探偵の真似事を始めたローラという少女。  
彼女が飼っていた黒猫型のペットロイドが行方不明になったので、探してほしいというのだ。

【PS：ローラの元へ黒猫を返す】

## 推奨スタイル：バサラ

SCENARIO HANDOUT

### コネ：イーベル

推奨スート：外界

君の仕事は、魔を祓うことだ。  
真教教会の影を担う特務機関・聖母殿の一員として、黒猫（の姿をしている）のイーベルと言うアヤカシを監視している。  
N◎VA軍駐屯地周辺でも目撃されているようなあやしいイーベルが、突然行方をくらませた。  
そう、何者かから逃げるかのように。

【PS：イーベルを監視する】

## 推奨スタイル：アヤカシ

SCENARIO HANDOUT

### コネ：ゴブリン一族

推奨スート：理性

君の仕事は、夜を見張ることだ。  
アヤカシ達の社会を乱す無法者に対して“執行人”として送り込まれるのが君だ。  
今回の標的は、最近になってN◎VAに現れ、好き放題暴れているというゴブリンたちだ。低級なアヤカシだとたかをくくっていたが、中には魔術と電脳に長けた厄介な者もいるという。

【PS：ゴブリン一族を掃討する】

## ●必要な神業

キャストが敵の神業のみでリタイアするのを防ぐために、合計で1個の防御系神業が必要だ。もう1つあると、ゲストを守ることができる。

また、《<sup>トゥルース</sup>真実》には使用想定シーンが存在する。

## ●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する社会技能は、〈社会：ストリート〉〈社会：アストラル〉などである。

## ■キャスト間コネクション

キャスト間のコネは以下の通り取得すること。

『フェイト』→『バサラ』→『アヤカシ』→『フェイト』

# R L用テキスト

◎ ◎ ◎

TXT4RULER

## ■ストーリー

アヤカシ達が跋扈するN◎VAの夜は、サロン・ドルファンの統治によって均衡を保っている。しかし、外来のアヤカシ達により、その治安が乱されようとしていた。

カムイS T ☆ Rより渡来した、ゴブリン・キング率いるゴブリン一族は、N◎VA軍が保有する戦術核の制御を奪うことで、N◎VAへの侵攻を行おうと目論んでいた。その計画の手始めとして、彼の側近であるゴブリン・ウィザードは、手近な猫型ペットロイドを電腦魔術により使い魔に仕立て、諜報活動を行わせていた。

そのペットロイドは、『フェイト』の見習いである少女、ローラの飼い猫だった。彼女は行方不明になった飼い猫を心配し、『フェイト』に捜索をお願いする。更に、アストラルにおける礼儀を弁えない無法者の存在は、またたく間にサロン・ドルファンや聖母殿に感知されるところとなり、『アヤカシ』や『バサラ』に、彼らの監視・討伐が命じられる。

しかし、低級なアヤカシであるはずのゴブリンは、ニューロエイジの電腦技術やサイバーウェアにより武装しており、更にはアヤカシ界でも一目置かれる伝説の騎士、ゴブリン・ナイトをその配下に擁していた。

これは、キャスト達がパーティを組んで、地下洞窟に潜むゴブリンを退治する、非常に分かりやすいシナリオである。

## ■クライマックスへの条件

ゴブリン一族が潜む、地下空洞（廃棄メトロ線）に向かえばクライマックス。

ゲスト情報

GUEST DATA

ローラ

エキストラ（マネキン◎）

▼解説

「わたしは『フェイト』さん直伝の探偵！」

ネバーランドで生活する少女。『フェイト』に憧れて探偵の修行（？）にあけくれる毎日である。……が、成果は芳しくないようだ。

自分の飼い猫だと主張する野良黒猫（ドロイド）が行方不明になったので、『フェイト』と共に探すことになるのだが……。

▼神業

神業は使用しない。キャストの神業が足りなさそうな場合、クライマックスで《ブリーズ！》を使用してもよい。



イーベル

ミストレス◎、アヤカシ＝アヤカシ●

▼解説

「オイラ、これでも気高いアヤカシにゃ！！」

飼い主が死んだ後、野良化した黒猫ペットロイドに付喪神が宿り、アヤカシとなったもの。〈血脈：魔器の一族〉である。ローラは自分の飼い猫だと主張するが、本人にその気はない。急に自分を拾って飼い主面しだしたローラは苦手だが、悪感情を持っているわけではないようだ。

ゴブリン・ウィザードの手により使い魔にされ、諜報活動をさせられる事に。

▼神業

2発の《霧散<sup>ディスアペア</sup>》はイベントで使用。《ファイト！》はキャストに使用してもよい。



# オープニングフェイズ

## OPENING PHASE

### ●フェイト：探偵は猫を探す

登場：他のキャストの登場不可

#### ◆解説

『フェイト』が自称“見習い第一号”の少女、ローラから、飼い猫の搜索を依頼(?)されるシーン。

#### ◆描写

ローラは、何の因果か君に懐き、君の“見習い第一号”を自称している少女だ。よく事務所に上がり込んで来ては、探偵のイロハを教えてほしいと言ってくる彼女であったが、その日は少し違った。彼女は依頼をしてきたのだ……よりにもよって、猫探しの。

#### ▼セリフ：ローラ

「あのですね。探偵さんに猫を探してほしいのです」

「探してほしいのはこの猫です。わたしの飼い猫なのです。かわいいでしょう？」

「わたしも探偵のはしくれです。わたし一人でも探せないことはないと思うのです。ですが……心配なのです。だから、手伝って欲しいのです」

「ちゃんとお金も出します。わたし、稼いでいるんです」

※ドヤ顔で3銅貨を差し出す(\*)

#### ◆結果

『フェイト』がローラの願いを受けたらシーン終了。

### ●バサラ：黒猫が運ぶは？

登場：他のキャストの登場不可

#### ◆解説

『バサラ』が聖母殿からの勅令により、イーベルという黒猫のアヤカシを監視するシーン。彼と接触しようとする、ディスアペア《霧散》を使用して退場してしまう。

#### ◆描写

君は聖母殿の勅命に従い、この数日間、イーベルという黒猫のアヤカシを監視していた。

そしてその日、ついにイーベルが怪しげな動きを見せた。N◎VA軍駐屯地付近に現れた彼は、ウロウロと歩きまわった後、イントロンしてどこかに情報を流し始めたのだ。今こそ彼に接触し、何をしているのか確かめなければ。

#### ▼セリフ：イーベル

(話しかけられた)「(ビクッ) ……にゃ、にゃー？」

「……なんだい、バサラ退魔師かにゃ。あれかい、オイラがアヤカ

シだから処分したりすんのかにゃ？」

「残念だったにゃ！ オイラは捕まらないにゃー！」

※ディスアペア《霧散》で退場

#### ◆結果

『バサラ』がイーベルの行方を追いはじめたらシーン終了。尚、聖母殿からの経費として3シルバーを渡すこと。

### ●アヤカシ：ゴブリン退治クエスト

登場：他のキャストの登場不可

#### ◆解説

N◎VAに侵攻してきたゴブリン一族の討伐を『アヤカシ』が依頼されるシーン。

#### ◆描写

N◎VAの闇に住まうアヤカシたちが集う宴、サロン・ドルファン。そこに今宵、ボロボロの姿で転がり込んできたアヤカシたちが居た。

イエローエリアの廃倉庫で、培養食品プラントを細々と経営しているコボルトたちだ。

#### ▼セリフ：コボルトたち

「ヤツら……“ゴブリン一族”が、あっしたちのプラントに攻め込んできて、食料を根こそぎ奪って行きやがったんです」  
「『これからこの一帯はオレ達が治める』とか言って、みかじめ料まで徴収して来やがって……」

「でもアイツら、妖しい電脳術を使う上にガチガチにサイバーアップしてて、あっし達じゃ歯が立たなくて……助けてください、この通りです」

#### ▼セリフ：アルドラ・ドルファン

「私たちサロン・ドルファンによる統治が、よりにもよって外来の、しかも低級なゴブリンどもによって脅かされるなどという事は、アヤカシたちの名誉を汚される事に等しいでしょう」

「『アヤカシ』、貴方にゴブリン一族の討伐をお願いします」

#### ◆結果

『アヤカシ』が任務を受けたらシーン終了。費用として1ゴールドが渡される。

#### 3銅貨

もちろん、データの的に意味などない。



# リサーチフェイズ

## RESEARCH PHASE

### ■クライマックスの条件

ゴブリン一族が潜む、地下空洞（廃棄メトロ線）に向かえばクライマックス。

### ●フェイト：ささやくのよ、わたしのゴーストが

条件：リサーチ最初のシーン

登場：〈社会：N◎VA、ストリート〉 10

#### ◆解説

『フェイト』が猫探しを始めるシーン。

【猫の行方1】についてリサーチをして貰うこと。尚、ローラも同じ判定をRLが行い、わざと失敗する(\*)。的外れな推理によって『フェイト』とは違う場所へ搜索に向かってしまう。

#### ◆描写

君はローラと共に、猫の搜索を始めた。ローラは顎に手を当てて何か思案するような仕草をした後、急にピーンと指を立て、口を開いた。

#### ▼セリフ：ローラ

（判定に失敗し）「閃きました！ わたしはですね、きっとホワイトエリアにいると思うんです！ 探偵の直感です！」  
「レッドエリア……？ そんなところにいるわけじゃないじゃないですか！ わたしの予想の方が絶対に正しいんです！ それにあんな危ないところは……（ブルブルと震える）」  
「まったくもう！ じゃあ『フェイト』さんはレッドエリアを探してきてください！ わたしはホワイトエリアを探してきます！」

#### ◆結果

ローラはホワイトエリアに向かってしまう。尚、キャストがローラについていくと言った場合、シナリオの進行に不都合が出る事を伝えて猫探しに専念してもらおう。

### ●アヤカシ：エンカウント

条件：【ゴブリン一族】についてリサーチした

登場：〈社会：アストラル、ストリートほか〉 10

#### ◆解説

『アヤカシ』がゴブリン一族の下っ端たちと遭遇する。下っ端ゴブリン達はエキストラである(\*)。

#### ◆描写

ゴブリン一族について調べる君の行き先を塞ぐ者たちがいた。噂をすればなんとやら、だ。

#### ▼セリフ：下っ端ゴブリンたち

「俺たちの事を嗅ぎまわってるみたいじゃねえか」  
「お前、アルドラの下僕なんだってな。あんな若造りに必死な年増の時代はもう終わりだぜ。これからはゴブリン・キング様の時代が来るのさ」  
「お前も、キング様の下僕にしてやってもいいぜ？」  
（断った）「そうかい。だったらここで死にな！！」  
「ギャーッ！ こいつ、強エーッ！！」

#### ◆結果

ゴブリンたちを散らしたらシーン終了。

#### わざと失敗する

ただのローラのボンクラ演出だが、RLの手札交換も兼ねている。

#### 下っ端ゴブリン達はエキストラ

キャストが4人の場合、トループにして戦闘を行わせてもいい。ただし、あくまでもこの下っ端たちはザコなので、強くしすぎないこと。

## ●フェイト：追いかけては続く

条件：中華街に向かった

登場：〈社会：アストラル、ストリートほか〉 10

### ◆解説

猫（イーベル）と接触するシーン。『バサラ』との合流を想定している。このシーンでも、イーベルは《霧散》<sup>ディアスアペア</sup>を使用して逃げてしまう。(\*)

### ◆描写

中華街の一角で、例の黒猫の姿を発見した。

#### ▼セリフ：イーベル

（捕まえようとする）「にゃー！（嫌そうに逃げ回る）」  
（『バサラ』がいた）「げげえ！ こんな所まで追ってきたにゃ！ しつこいにゃ！！」

（ローラが探してる事を伝えた）「ローラ？ そ、そんな子もいたにゃ。でも猫は飼い主には縛られにゃいにゃ！ 腹が減ったら帰るにゃ！」

「もう追ってくるにゃー！」※《霧散》<sup>ディアスアペア</sup>で退場

### ◆結果

次のシーンから【猫の行方2】をリサーチ可能に。

## ●バサラ：伝説のゴブリン

条件：【ゴブリン・ナイト】についてリサーチした

登場：〈社会：アストラル、ストリートほか〉 10

### ◆解説

ゴブリン・ナイトの顔見せシーン。ゴブリン一族について嗅ぎまわるキャストたちを排除するため、彼女が接触してくる。カット進行を行うこと。

ゴブリン・ナイトは戦闘不能になると、《霧散》<sup>ディアスアペア</sup>を使用して退場する。

### ◆描写

君達の前に突如、一匹のゴブリンが現れた。闇にはためくマント、ゴブリンに似あわぬ黄金のオーラを纏った、威风堂々たる姿。彼女は君たちの前で立ち止まると、右腕のサイバーアームを胸に当て、うやうやしく騎士の礼をした。

#### ▼セリフ：ゴブリン・ナイト

「お初お目にかかる。わが名はゴブリン・ナイト。王の命により参上した」

「我が王は、この街の覇権を得る為に、貴方がたを退けよと私に命じました。だが、貴方がたは、敵対するには惜しい、誇り高き方々だとお見受けする」

「故に、私は貴方がたに乞い願う。これ以上、我が王、我が一族の邪魔をしないで頂きたい」

（断った）「残念です。では、申し訳ないが、この場で打ち倒させて頂く」

（『アヤカシ』がいる場合）「……私の同胞が世話になったようですね。敵は取らせて頂く。覚悟！」

（倒された）「くっ……想像以上に、強い……！」

### ◆結果

ゴブリン・ナイトが退場したらシーン終了。

#### ●フェイト：追いかけては続く

このシーンで『フェイト』と『バサラ』が合流することを想定している。

もし『フェイト』がアストラルと縁の遠いキャストだったなら、このシーンでそれを引き合いに出した掛け合いができるだろう。

#### 《霧散》で逃げる

キャストが神業で打ち消そうとした場合、シナリオの進行に不都合が出ると伝えること。

## ●RLシーン：ふたりの主

条件：【猫の行方（2）】をリサーチした

登場：キャストの登場不可

### ◆解説

ローラがイーベルを見つける。そこにイーベルを従えている主、ゴブリン・ウィザードが登場し、彼女を生贄にしようと捕らえる。

イーベルは止めようとするが、ゴブリン・ウィザードの《死の呪言》<sup>ガーディアン</sup>により精神ダメージを与えられており、主に逆らえない。

### ◆描写 1

ホワイトエリアをうろうろと探しまわったローラだったが、猫はどこにも見つからなかった。

「うう、猫ちゃん、どこに行っちゃったのかしら」

その時、脳裏に『フェイト』の言っていた事が思い出される。

「まったく、『フェイト』さんったら、レッドエリアになんかいるわけじゃないじゃない……ま、まあ、一応、見ていってあげないこともないけど……」

てくてくとレッドエリアへと向かうローラ。偶然立ち寄ったヒルコ街で、飼い猫の姿を発見した。

#### ▼セリフ：ローラとイーベル

ローラ「あ、猫ちゃんいた！ もー、こんな所に来ちゃダメじゃない！」

イーベル「にゃー……（な、なんでこんな所に来るんだよ。どうすっかな……）」

ローラ「もう逃げちゃダメよ。さ、おうちに帰りましょ。でも、『フェイト』さんの言ってた事、当たってたなあ。帰ったら……お礼、しないと、いけないよね……」

### ◆描写 2

よっこいしょ、と。ローラが猫を抱きあげ、振り返ったそこに、黒いローブを着た化物が立っていた。腰を抜かして倒れるローラ。

#### ▼セリフ：ゴブリン・ウィザードとローラ、イーベル

ウィザード「お嬢さん、ごめんなさいね。その猫は私のなの。返して頂戴」

ローラ「え……や、やだもん、猫ちゃんはわたしの猫ちゃんだもん！」

ウィザード「生意気な小娘ね。……あら、でも、良い生贄になりそうな魂の色をしているわ(\*)」

イーベル「や、やめろにゃ！ その子は関係ないにゃ！」

ウィザード「イーベル。貴方、いつから私に口答えできるようになったのかしら？」

イーベル「にゃ……す、すいませんにゃ……」

### ◆結果

ゴブリン・ウィザードがローラの顔に手をかざすと、彼女は気を失う。ローラが連れ去られてシーンエンド。以降、【猫の行方3】をリサーチ可能に。

## ●フェイト：だいきらいな君を

条件：『フェイト』の事務所へ向かった

登場：〈社会：アストラル、ストリートほか〉 10

### ◆解説

リサーチ最後のシーン。イーベルは『フェイト』の事務所にいる。彼はもう逃げない。彼に対して《真実》<sup>トゥルース</sup>を使用する事で、ゴブリン一族の居場所が明らかになる。

### ◆描写

黒猫は、『フェイト』の事務所の軒先に、肩身狭そうに座っていた。君達が近づいても、もう逃げる事は無い。

#### ▼セリフ：イーベル

「あー……ここ、あんたの事務所だったのかにゃ。どうりでローラの匂いがすると思ったにゃ」

「ローラ、連れ去られちゃったにゃ。でもしょうがないにゃ。あんな危ない所に一人でくるからこんなことになるんだにゃ」

（居場所を聞いた）「そんなの言えないにゃ！ あいつらに逆らったら殺されるにゃ……ゴブリン一族はとんでもない奴らにゃ。慈悲とか欠片も無いにゃ」

（※《真実》<sup>トゥルース</sup>を使用した）

「ローラは……いっつも滅茶苦茶に撫でくり回してくるし、変な芸を仕込もうとしてくるし、出す飯は安物だしで良い事ないにゃ。飼い主ッ面してくる所も嫌いにゃ。オイラ、誇り高いアヤカシなのに」

「でも……生贄にされて殺されるのは……なんか嫌にゃ。助けてやって、くれるかにゃ……？」

（肯定した）「ヤツらは、地下の洞窟にいるにゃ。元々メトロの線が走ってたところにゃ」

### ◆結果

キャスト達が廃棄メトロ線へ向かったらクライマックスへ。

#### 良い生贄になりそうな魂の色

ローラは僅かだがバサラの素質があるため……だとは思いますが、実はあまり意味は無い。

このシナリオはあんまり難しい設定は盛り込まず、分かりやすさを重要視しているので、まあ、その……雰囲気を感じてほしい。

クライマックスフェイズ

CLIMAX PHASE

# ●ゴブリンと少女と炎の祭壇

## ◆解説

クライマックスシーン。現代の地下迷宮とも言える廃メトロで、ローラが儀式の生贄に捧げられようとしている。

## ◆描写

廃棄メトロ線の奥深く、開けた空洞になった場所に、多くのゴブリンたちがひしめくアジトがあった。その奥には、原始的な炎が祭られた祭壇があり、電脳で編まれた魔法陣が敷かれていた。

その祭壇の上に横たえられたローラ。ゴブリン・ウィザードが呪文を詠唱すると、その体が宙に浮く。うう、と苦しそうに声をもらした。

玉座に鎮座していた、ひと際巨大な体に赤黒いオーラを纏ったゴブリンが立ち上がる。

### ▼セリフ：ゴブリン・ウィザード

「キング。この娘の魂を生贄に捧げれば、我らの秘術も盤石なものとなりましょう」

### ▼セリフ：ゴブリン・キング

「うむ」※ローラに手をかざす。《<sup>ゴスベル</sup>神の御言葉》(\*)  
(キャストらに阻まれた)「何奴……なんだ、見ればアリのよ  
うな人間ではないか」  
「人間風情がオレに齒向かうだと。愚かな……よもやここから生きて出ることはかなわんぞ」  
「他の部下どもとオレは全てが違うぞ。オレに流れるのは王の血。不死身の力よ。貴様らは王の血に負けるのだ」  
「ゴブリン・キングに逆らったものには、降伏すら許さん！皆殺しだ！」

### ▼セリフ：ゴブリン・ナイト

「やはり、もう一度あいまみえることになりましたね。今度は、負けません……！」

## ◆結果

敵は以下の通り。

- ・ゴブリン・ナイト : AR 3
- ・ゴブリン・ウィザード : AR 3 + 1
- ・ゴブリン・キング : AR 2

ゴブリン・ナイトが近距離。ウィザードとキングは中距離で1エンゲージ。

ゴブリン・キングを倒したら戦闘終了。シーンを終了してエンディングへ。

ローラに《神の御言葉》

登場と同時に防御系神業を使用する事で、防げるとする。防御系神業が無い場合、イーベルが『アヤカシ』の《霧散》に《ファイト！》を使用し、救出してもらう。

ゴブリン・キングの神業

《不可触》は、キャストの戦力や神業の数が十分ならば、「ライフパス：悪魔の報復（『WOR』53p）」を取得させて効果を書き換えてもいい。



# エンディングフェイズ

## ENDING PHASE

各キャストとこれまでの物語に相応しいエンディングを演出すること。ここでは一例を示す。

### ●アヤカシ：夜の支配者

任務を達成した『アヤカシ』を、アルドラが労う。

#### ▼セリフ：アルドラ

「ご苦労様でした。あなたのお陰でN◎V Aの夜は守られました」

「まったく、田舎者のアヤカシは不作法でいけないわね。この街の夜を支配するには、人間社会と上手く折り合いをつけなくてはならない……そんな事も分からないなんて」

### ●バサラ：ねこのおんがえし

任務を終えて聖母殿に帰還しようとする『バサラ』に、イーベルがお礼を言いにくる。

#### ▼セリフ：イーベル

「『バサラ』……えっと、その……なんにゃ」

「こ、今回は、せ、世話になったにゃ。一応、感謝しといてやるにゃ」

「べ、べつに、ローラがどうなってもオイラには関係ないけどもにゃ！ う、ウソじゃないにゃ！ ちょ、そんな目で見るとにゃ！！」

「な、なんか困った事があつたら言えにゃ。使えばしりくらいなら、してやるにゃ……」

### ●フェイト：騒がしい日常

アストラルという、非日常の世界を体験した君とローラであったが、数日後、君の目の前にはいつもと変わらない日常が繰り広げられていた。

#### ▼セリフ：ローラ

「探偵さん、探偵さん！ 大変なのです！ また猫ちゃんがなくなっちゃったのです！」

「せっかく今流行りのニューロなトリミングをしてあげようと思ったのに！（モヒカン姿の猫の写真が載ったペット雑誌を持って）」

「あ、いた！ 待てー！ なんで逃げるのよー！！」

#### アヤカシのエンディング

テストプレイでかなり多かったエンディングが、生き残ったゴブリン・ナイトをサロン・ドルファンに引き入れるというものだ。

王を失ったナイトは、仕えるべき誇り高い君主を見つけた場合、その者に新たな忠誠を誓うだろう。それはアルドラかもしれないし、キャスト自身かもしれない。